«西胆振 医療シリーズ企画»

「世界パーキンソン病デー」に合わせ、専門医が語る記事体広告で発信

北海道新聞社ではシリーズ記事として2015年より「がんを防ごう」キャンペーンを展開しており、がんを中心とした医療情報を手厚く発信しています。北海道新聞室蘭支社が担当する**西胆振エリアは人口規模に対して総合病院が多く、クリニックや医院も多数開業しており医療環境が充実**しています。そこで、医療記事を多数展開する当紙を用いて他院との差別化を図るべく、日刊紙である特性を活かした**医療広告企画「○○の日シリーズ」を各医療機関にご提案**しました。

当企画を、**むろらん神経内科クリニック**に対して、世界アルツハイマーデー（9月21日）で提案したところ、**先生の専門領域がパーキンソン病であることが判明。改めて、世界パーキンソン病デー（4月11日）で提案し、ご協賛に至りました**。企画を通じて、開院3年目の同クリニックの認知拡大を図るとともに、同じビルに入っている心療内科クリニックとの領域の違いも訴求し誤認を防ぐことも目的としました。記事体広告部分の取材は、先生の通常業務に影響を与えないよう、事前打ち合わせによって設問をある程度聞いた上で後日取材シートに記入いただき、初稿提出後に加筆修正する形で進めました。また医療法に抵触しないよう、管内室蘭市保健所の事前審査も経て、紙面掲載しました。

北海道新聞に広告掲載後、同クリニックへ新規問い合わせをいただくなど読者からの反響もあり、好意的な感想を頂戴しました。また当企画はシリーズとして、子宮の日（4月9日）、看護の日（5月12日）、こころの日（7月1日）、肺の日（8月1日）と掲載が実現しました。今後も多くの医療企画を通じて読者に有意義な情報を伝えていきたいと思います。　（室蘭支社営業部 大佐和 惇）

4月11日(水)は世界パーキンソン病デー

パーキンソン病患者さご本人や家族の悩み、病気との向き合い方などを神経内科の専門医である大塚先生にお伺い致しました。

企画・制作／北海道新聞室蘭支社営業部

本日4月11日は世界パーキンソン病デーとして世界中で病気に対する啓発活動が行われています。まずはパーキンソン病について教えてください。

パーキンソン病は、今から約200年前、1817年にイギリスのロンドンで開業医をしていたジェームズ・パーキンソン先生が発見した病気です。ちなみに、「世界パーキンソン病デー」の4月11日は、パーキンソン病の誕生日です。

パーキンソン先生は、この病気をみつけたとき「手足が震えて動かしにくくなる病気」と報告しました。この報告のとおり、パーキンソン病の代表的な症状は、「手足が震える」「筋肉がこわばって動かしにくくなる」さらに、「動作が遅くなる」「ふらつく＝バランスが悪くなる」です。また、歩くときには足が前に出にくくなり歩幅が小さくなります。

近年、パーキンソン病では運動障害の出現前に、嗅覚障害や便秘、気分の落ち込みや意欲低下、睡眠障害など、運動以外の症状が出現することがわかり注目されています。

パーキンソン病の患者さんは全国に15～20万人ほどいると推定されており、「60代で100人に1人、80代で100人に3人」というように、年齢とともに増えていく病気です。超高齢社会を迎え、その患者数は増えています。

むろらん神経内科クリニック院長　大塚 千久美先生（オオツカ チグミ）　医学博士　神経内科専門医　指導医

現在、どんな治療が行われているのでしょうか？

パーキンソン病の原因は、脳の中で神経の連絡に必要なドパミンが不足することです。そのため、パーキンソン病の治療で最初に行うのは、この脳内で不足したドパミンをお薬で補充することです。現在は、内服薬のほかに皮膚から薬を吸収させる貼付剤もあります。また、治療期間が長くなる時には、脳深部刺激療法という外科手術や、腸管内にチューブを留置して携帯式ポンプから持続的にお薬を注入する治療法もあります。近年は新たな治療薬の開発も多く、また、遺伝子治療やiPS細胞を用いた治療の研究も行われ、期待されています。

日常生活で気になるチェック項目や対策事項を教えてください

パーキンソン病の非運動障害である自律神経障害の中で最も多いのが便秘です。便秘になると、消化器の動きが悪くなりお薬の吸収が悪くなるために調子が悪くなります。よって排便コントロールは重要で、水分や食物繊維の摂取、または慢性便秘症に対して十分な薬物治療を行うことが必要です。

患者さんはどんな不安を抱えている方が多いのでしょうか？

パーキンソン病になると、そもそも不安を強く感じるようになります。そのため、今まで普通にできていた外出や人の集まる場所に出かけることに対して、体調や気持ちの上で不安を感じる患者さんも少なからずあります。また、進行したらどうなるのか、調子が少し悪いと病状が進行したのではないかと心配する患者さんも多いです。患者さんには、パーキンソン病は、その日によって調子は変動しますが、急に進行する病気ではなく、また、現在は、治療も充実しており、寝たきりになる病気ではないことを知って欲しいです。

ご家族や周囲の方々が知っておくべきことがあればお教えください

前述したように、パーキンソン病は運動障害だけではなく、様々な非運動障害を併発します。この非運動障害が患者さんや介護者のQOL（日常生活の質）に与える影響は大きく、非運動障害を認識し治療することも重要です。

不安に感じたら、専門医でのご相談を

筋肉のこわばりによる手足の痛み、動かしにくさや歩行障害を伴うパーキンソン病は、脳梗塞、リウマチ、整形外科的疾患などと間違えられ、診断がつくまでに長い時間を要する患者さんも少なくありません。パーキンソン病は、我々専門医にとっては比較的容易に診断できる疾患ですが患者さんは何科に行っていいかわかりません。長い人では、診断まで6、7年もかかっている人もいます。適切な早期治療を受けるために、脳外科や整形外科だけではなく神経内科を受診することも検討していただければと思います。

――ありがとうございました。

むろらん神経内科クリニック

室蘭市中島町1丁目28-18メディカル中島Ⅲ2F　道南バス「東通り」バス停前　駐車場完備　☎0143-41-5533

受付時間	月	火	水	木	金	土
AM 9:00～12:00	●	●	●	●	●	●第2第4
PM 2:00～6:00	●	●	／	／	●	／

■休診日　日曜・祝日・木曜午後　第1・第3・第5土曜日

http://muroran-clinic.com/

（2018年4月11日 朝刊 室蘭版 全5段）

POINT!

＊**医院・クリニックの先生に病気についてお聞きし、「記事体広告」で詳しく発信**することが可能です。